

令和元年10月15日
石川県健民運動推進本部
(県民交流課内)
076-225-1365(内線3818)

鬼原

「ふるさとのツバメ総調査作品コンクール（記録観察作品の部、感想文の部、ツバメのお宿シールの部）」の受賞者の決定について

1 募集概要

ふるさとのツバメ総調査作品コンクール

○「記録観察作品の部」、「感想文の部」

ふるさとの環境を見つめ、自然を愛護する心を育み、生き物への関心を高める機会となることをねらいとして実施しているツバメ調査について、写真、ツバメ新聞などの「記録観察作品」、心に残ったことや理解したことの「感想文」を募集した。

○「ツバメのお宿シールの部」

ツバメの巣がある場所に貼ることで、次年度以降の調査の目印として活用する「ツバメのお宿シール」の原画を募集した。

最優秀賞受賞作品は来年度の調査時に使用するシールの原画となる。

2 作品募集期間

令和元年5月17日～7月26日

3 応募総数

ふるさとのツバメ総調査作品コンクール

・記録観察作品の部	9校	
・感想文の部	180校	2,622点
・ツバメのお宿シールの部	159校	1,819点

4 被表彰者

別紙のとおり

5 表彰式

日時 令和元年11月17日(日) 午前11時～12時
場所 県庁行政庁舎 19階 展望ロビー

6 展示会 「ふるさとのツバメ総調査パネル展」を下記のとおり開催予定

日時 令和元年11月13日(水)～28日(木) 午前10時～午後8時
場所 県庁行政庁舎 19階 展望ロビー
展示内容 入選作品等を展示

7 その他 来年度に使用される「ツバメのお宿シール」は11月上旬頃作成予定

<参考> 第48回(令和元年度)ふるさとのツバメ総調査について

5月の愛鳥週間(5月10日～16日)に県内全公立小学校201校の6年生を中心とする、11,460人の児童がツバメ調査を行った。

48年間にわたって全県でツバメを調査しているのは石川県のみ。

ふるさとのツバメ総調査作品コンクール受賞者一覧

記録・観察作品の部

1	最優秀賞	珠洲市立蛸島小学校	ツバメ調査をまとめた冊子
2	優秀賞	小松市立東陵小学校	ツバメ調査のポスターとツバメ新聞
3	優秀賞	能登町立松波小学校	ツバメ新聞
4	佳作	小松市立日末小学校	ツバメ新聞
5	佳作	加賀市立山代小学校	ツバメ調査のポスターとツバメ新聞

感想文の部

1	最優秀賞	珠洲市立蛸島小学校	6年	サクラダ マユコ 櫻田 麻優子
2	優秀賞	珠洲市立蛸島小学校	6年	テラダ コトノ 寺田 琴乃
3	優秀賞	加賀市立山代小学校	6年	シマダ コトミ 嶋田 琴水
4	優秀賞	内灘町立鶴ヶ丘小学校	6年	ネブテヨウ サキ 根布長 咲希
5	佳作	珠洲市立蛸島小学校	5年	ハンジウ タイガ 番匠 泰雅
6	佳作	内灘町立鶴ヶ丘小学校	6年	ハンコト アヤノ 橋本 彩乃

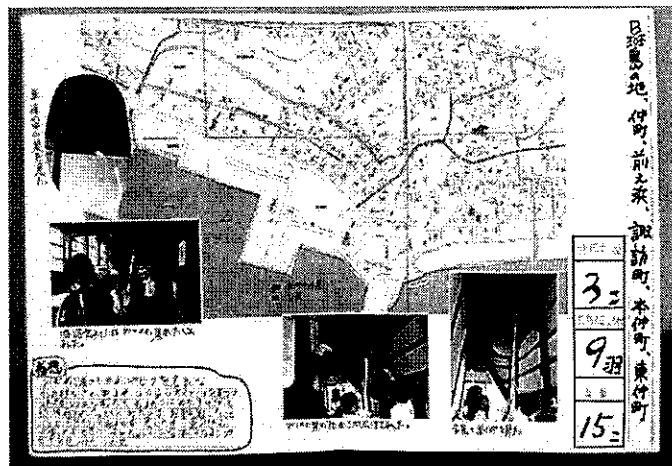
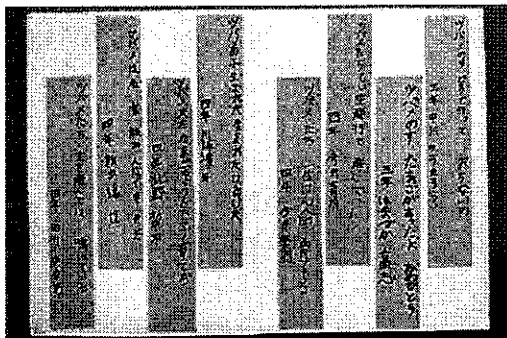
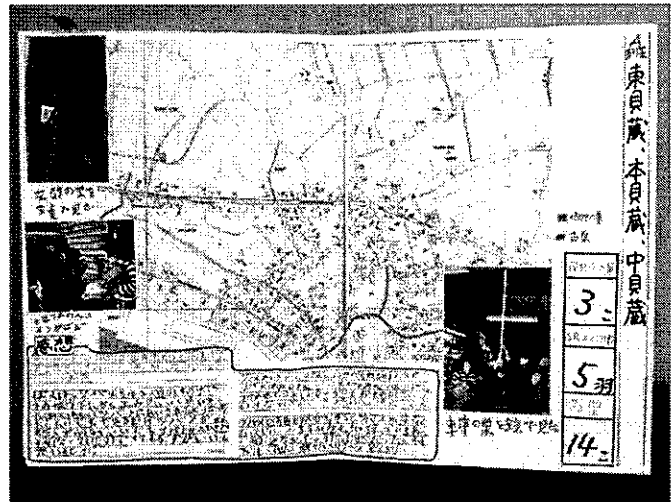
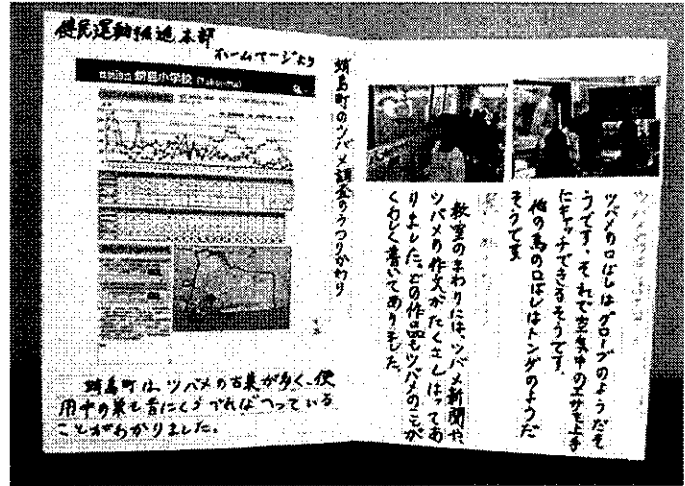
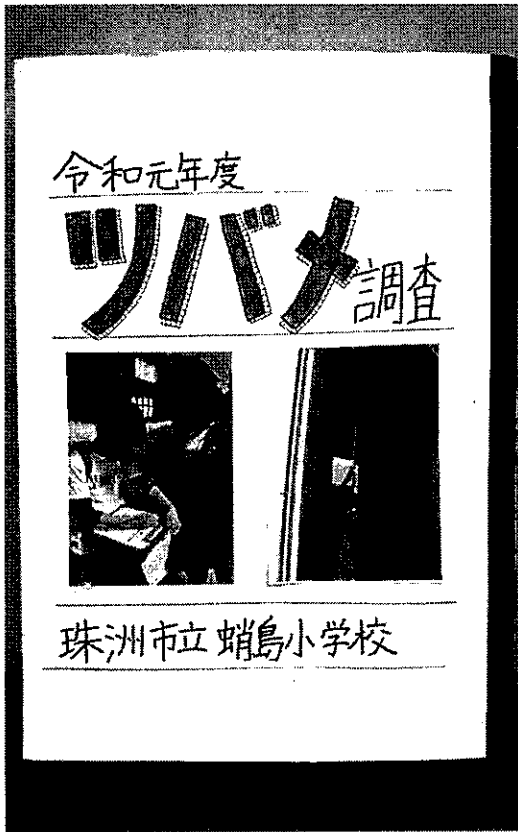
ツバメのお宿シールの部

※最優秀作品を第49回(令和2年)に使用する

1	最優秀賞	輪島市立河井小学校	6年	オカガキ カホ 岡垣 花歩
2	優秀賞	珠洲市立正院小学校	5年	ヤチマエ ヒイナ 谷内前 雛菜
3	佳作	小松市立第一小学校	6年	ミヤタ キョウヘイ 宮田 景平
4	佳作	加賀市立山代小学校	6年	ニシ クレハ 西 倶麗羽
5	佳作	加賀市立山中小学校	6年	オクムラ オトハ 奥村 音葉
6	佳作	羽咋市立羽咋小学校	6年	マグチ ナオ 澗口 奈央
7	佳作	中能登町立鳥屋小学校	6年	オカミナ ヒサトシ 岡峰 尚歳

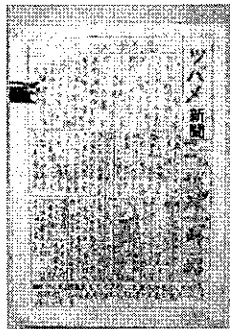
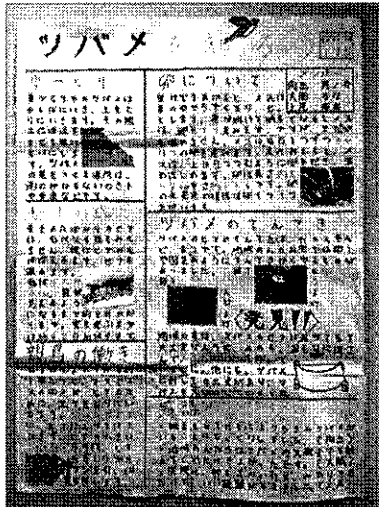
1 記録・観察作品の部

最優秀賞 珠洲市立蛸島小学校 (調査結果、感想文、俳句等を合冊した冊子)



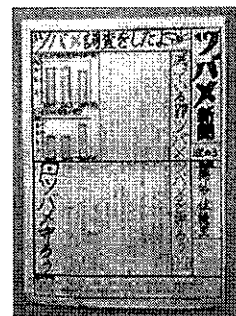
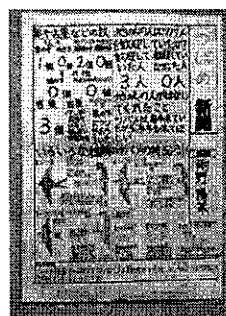
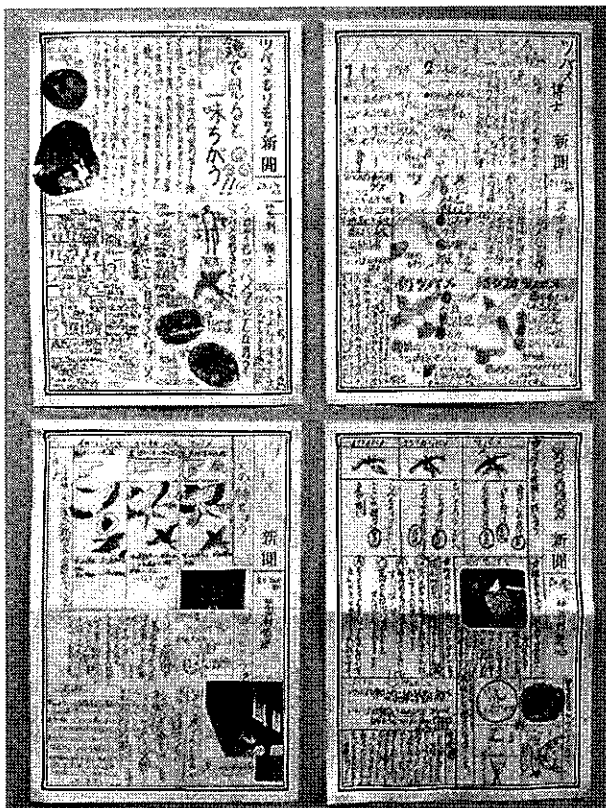
優秀賞 小松市立東陵小学校
(ツバメ調査ポスター6枚、ツバメ新聞8枚)

優秀賞 能登町立松波小学校
(ツバメ新聞17枚)



佳作 小松市立日末小学校
(ツバメ新聞12枚)

佳作 加賀市立山代小学校
(ツバメ調査ポスター8枚、ツバメ新聞12枚)



2 感想文の部

最優秀賞

「ツバメ調査」

珠洲市立蛸島小学校 6年 櫻田 麻優子

私はツバメ調査で、2つの発見がありました。

1つ目はツバメについての発見です。

私が調べた地域では、去年、ツバメが来た家に、今年もツバメが来ていました。その理由は、そこがツバメにとって住みやすい環境だからだと思いました。軒下や車庫は、出入りしやすく、人間が近くにいる、危険から守ってもらえる場所だと思います。

今年、ツバメについておどろいたことがあります。一軒一軒回って話をきくと、「ツバメを歓迎する人」と「歓迎しない人」が半々だったことです。去年は、「歓迎する人」ばかりだったのになぜ？と思いました。歓迎しない理由を聞くと、

「ツバメの巣をねらって、カラスやヘビが車庫や家に入ってくるから。」

ということだったので、納得しました。ツバメはいいけど、ヘビが入ってきたら、いやだなと思いました。

2つ目は、蛸島町についての発見です。自分の家の近くやその周辺を調べたとき、「こんな所に家があったんだ。」とか「この道は、あの道につながっていたんだ。」とか、新しい発見がたくさんありました。ずっと住んでいるのに、知らないことがたくさんあったことに気がつきました。

地域の方は、みんなやさしく「ご苦労さん。」「暑いね。」「大変だけどがんばって。」等、声をかけてくれました。蛸島町の方のやさしさを再認識した一日になりました。

このように、私はツバメ調査で多くの発見があり、たくさんを知ることができました。ツバメ学習会で、ツバメには80種類もの種類があることが分かったので、もっとツバメについて調べてみたいと思いました。そして、たくさんツバメが来る、ツバメの住みやすい蛸島町になるといいなと思いました。

優秀賞

「ツバメ調査で」

珠洲市立蛸島小学校 6年 寺田 琴乃

私がツバメ調査をするのは、去年に続き、2回目になります。去年と比べて「よかったな。」と思ったことが2つありました。

1つ目は、「ツバメを歓迎する。」と言った人が多くなったということです。今年は去年に比べ、ツバメの巣がある家は少なくなりました。でも、インタビューすると、「ツバメの巣はないけど、もし、ツバメが巣を作ったら歓迎するよ。」と答えた人がたくさんいました。私は、ツバメ調査をする前、「巣があると、下の方にフンが落ちて、よごれるからいやだな。」と思っていました。でも、地域の人から話をきいていくうちに、「ツバメがいてもいいかな。」と思ってきました。

2つ目は、今年、長い棒に鏡をつけた物で、巣の中を見ることができたことです。ツバメ調査の前日、学校でツバメ学習会がありました。健民運動推進本部の方が、ツバメ調査の去年の結果や、何十年にも渡る継続調査でのツバメの生息数の変化等を説明して下さいました。その学習会の中で、ツバメをおどろかせないで巣の中を見る方法として、長い棒の先に鏡をつけたものを使うことを教えてくださいました。

次の日のツバメ調査で、ツバメの巣を見つけると、その長い棒の鏡を使って、巣の中を見

てみました。巣の中にたまごが4個ならんでいるのが見え、「あの中にヒナがいるんだな。」
とあってうれしくなりました。たまごを見て、新しい命が育まれていることが実感できま
した。

今年は、ツバメ調査をして、ツバメが来る蛸島町で本当によかったなと思いました。地域
の人も、みんなやさしく教えてくれたし、ツバメを大切に思っていることも分かりました。
蛸島町に来るツバメが、もっと増えてほしいと思いました。

優秀賞

「やさしさあふれるつばめの住む町」

加賀市立山代小学校 6年 嶋田 琴水

私は、つばめ調査をして分かったことが1つあります。それは、つばめを受け入れてくれ
る家の方たちのあたたかさです。私が調査をした地域には、つばめを受け入れている家や建
物が4軒ありました。そして、どこの家の方も建物を管理している方も、つばめをとて歓迎
していました。「カワイイから」という理由や「住むところがなくてかわいそうだから」
という理由でつばめの巣を残しているところが多かったです。私はそんな方々を見てとても
やさしいと思いました。しかし、歓迎はしていますが、「他の鳥が入ってくるのがいやだ」
という、子どもの意見もありました。

私の家は、つばめの巣があったけど、全部取りこわしたそうです。理由は、私の家は九谷
焼のお店をしていて、作品にかかったら大変だからです。お店をしているから巣を取りこわ
したというところもつばめ調査をしていて多かったです。

今回初めて自分が住んでいる地域のつばめを調べて、ふだんふつうに生活をしているとつ
ばめはあまり見ないけど、探してみるとつばめがたくさんいたのでびっくりしました。つば
めのヒナは巣立っていくけど、また、自分の地域にもどってきてほしいです。そして、その
ころには、つばめを歓迎してくれる家や、巣を作らせてくれる家が増えるといいなと
思います。

私は、つばめ調査をして思ったことがもうひとつあります。それは、巣をとりこわすのも
やさしさだということです。あるお店は、つばめが入ってきて、出られなくなってあちこち
にぶつかって夜のうちに死んでしまうのでかわいそうだから巣を取りこわしたとおっしゃ
っていました。つばめが死なないように、つばめが出られなくならないようにという思いで
巣を取りこわすのは、つばめのことを思って、だからそれもやさしさなんじゃないかと私は
思いました。これからも、つばめを大切に、みんなで守っていききたいと思います。

優秀賞

「つばめ調査をしてみて」

内灘町立鶴ヶ丘小学校 6年 根布長 咲希

つばめはどうやって生活をしているのか、エサをどうやって食べているか、巣を作る場所
はどんな所なのか、普通に生活していても分からない事がこの調査をして知る事ができまし
た。

私は、自分の家の周りで調査をしました。家の周りには、今まで通ったことのある道でも、
気づかない場所につばめの巣があったりしたから、巣を探す時は宝探しみたいに楽しみなが
らできました。近所に住んでいる方も、優しく、私達が調査をしていると知ったら、つば
めについて知っている事を自分から話して下さって、地元の人とのコミュニケーションもと
れたのですごく良かったです。

古巣が4つもある家があったのでつばめにとってもその家は住みやすいのかなと思いました。他にもバーベキューをしにサイクリングターミナルに行った時、友達の奥村さんとトイレに行くと、女子トイレの入り口、男子、女子トイレの中にも巣がありました。女子トイレの入り口前の巣には、2羽程ひながいて、女子、男子トイレの中の巣には合計10羽のひながいました。女子トイレの中の電気の上のひなは、4羽みんな口を開けてエサを待っている様子でした。トイレの看板みたいなものの上には成鳥がいて、何度もトイレに出たり入ったり遠くに行ったりもどったりして、見ていると成鳥は大変なんだと改めて思いました。成鳥はひなのために毎日何度も何度もエサを取りに往復していて体力がいっぱいあるなど思いました。私のお父さん、お母さんも毎日仕事場と家を往復したりご飯を作ったりしているから、どの動物のお父さん、お母さんは子どものためにがんばっています。なので私も習い事などをがんばります。

佳作

「ツバメに対する地域の人々の思い」

珠洲市立蛸島小学校 5年 番匠 泰雅

ツバメ調査の前日に、ツバメ調査学習会がありました。健民運動推進本部の方のお話で心に残ったことは、生まれたヒナは、生まれた巣で飛ぶ練習をして、大きくなったら、遠い町や遠い国へ行ってしまうということです。特にびっくりしたのは、そのツバメが、あまり元の巣にもどってきていないということです。

ツバメ調査をしていると、いつも巣がある家にはツバメがいるので、昨年いたツバメがもどってきているのだと思っていました。推進本部の方のお話だと、1割ぐらいしかもどつてこないそうです。

もどつてこないとツバメの数がへってしまう。もどつてきたくなるように、人間が考えなければいけないと思いました。

ツバメ調査のため、一軒一軒、家を回っていると、すごい家がありました。カラスやトンビから巣を守るために、天井からCDをつるしてある家があったのです。CDがキラキラ光って、カラスやトンビは近づかないそうです。

他の町内では、車庫の天井の方にあみをはって、ツバメの巣を守っている所もあったそうです。

地域に住む人に、「ツバメが来たら歓迎しますか。」と聞くと、「はい。」と答える人が多くいて、これもびっくりしました。ぼくは、「フンをたらされるからイヤだ。」と言う人もいると思っていたけど、全然いませんでした。

地域の人がツバメを歓迎する気持ちと、ツバメがおそわれないようにする人間の知恵が地域のツバメを支えていると思いました。

佳作

「ツバメ調査を通して」

内灘町立鶴ヶ丘小学校 6年 橋本 彩乃

今年は、私の家にツバメが来てくれるかな、毎年この時期になると窓わくの上に取り付けてある板をながめています。

私は地域のツバメ調査ができることを楽しみにしていました。なぜなら、家族から私の家にも数年前まではツバメがやってきて、巣を作りくらしていたという話を聞いていて、どんなところにツバメは巣を作るのだろうと興味があったからです。

調査をやってみて、ツバメの巣を見つけたときはとてもうれしかったです。古巣も見つけることができたし、実際に巣の中にいるツバメを見ることができました。とてもかわいかったです。ツバメは車庫の中や屋根の内側など天敵から身を守ることができる場所に巣を作っていることが分かりました。地域をまわるにつれて探すポイントが分かるようになり、もっと見つけたいと思いました。

古巣があった家の人に話を聞くと、虫よけをげんかんにかけたから、ツバメは来なくなったのかなと話していました。私の家にあったツバメの巣も、カラスにこわされてしまったので、つばめは来なくなってしまったのかなと思いました。

そのことから、ツバメは学習能力があり、そして、ツバメが来た年には、私や弟、妹が産まれたりしたそうなので、幸せを運んできてくれる鳥だと思います。ツバメは南に渡るときに、長い距離を飛ぶので、あの小さな体に大きな力を持っていると思うとおどろきと尊敬の気持ちがわきました。

私は、ツバメ調査を通して、地域の方々に受け入れられ、思いやりの気持ちを持って接していると感じました。だんだんツバメの巣の数も減ってきているけれど、また、私の家にツバメがやってきたらあたたかく見守りたいと思います。

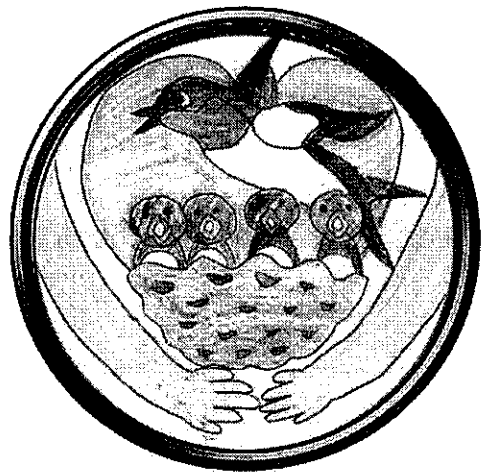
令和2年度使用「ツバメのお宿シール」原画作品 入賞作品

最優秀賞 (令和2年度のシール)

優秀賞



輪島市立河井小学校
6年 岡垣 花歩



珠洲市立正院小学校
5年 谷内前 雛菜

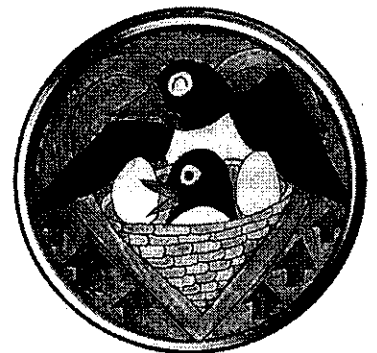
佳作 (5点)



小松市立第一小学校
6年 宮田 景平



加賀市立山代小学校
6年 西 俱麗羽



加賀市立山中小学校
6年 奥村 音葉



羽咋市立羽咋小学校
6年 潤口 奈央



中能登町立鳥屋小学校
6年 岡峰 尚歳